

資 料

3

柳川構成員
資料

*保護司活動と組織活動のありかたが2本の柱・基本

構成員 柳川義信

★平塚保護司会・神奈川県保護司会・関東地区保護司会・全国保護司会代表

☆今回6月27日ではぼ今まで検討してきたおお筋は、おおむね持続可能な保護司制度の着地点は見えてきたのかと。

★標記の組織代表をしている関係で、さまざまな保護司さんからの意見や考えを聞いて来ました。保護司活動・組織活動の二点重視

*この文章は提言ではなく・保護司としての基本を話してくれとさまざまな会議で思いのまま述べてくれと話し合いました。

(まさに保護司の声として役人の作る文章ではなく気持ちを述べた)

① 保護司活動「近年、保護観察事件が減少し担当しない人が増えてきた。事件の多い時期は共通の話題や定例研修や自主研修で事例を新任の人や経験年数の短い人を交えて話し合えたが、本来の保護司活動は担当事件をして・報告書を作成しての基本が失われることが課題。保護観察事件を担当して初めてわかる。

② 組織活動のありかた「①の記載で事件担当が無くても、地域活動は、社会を明るくする運動や地域活動は参加できる」。

・地域には、社会福祉協議会・防犯協会・交通安全協会・

民生委員会・子供の登校下校の見守り等等たくさんある。

地域活動の原点はたくさんある。すべての地域の人々と関わる難しいが、その中で、犯罪予防活動は出来るし・薬物乱用防止活動は少しでもできる。

※法務省主唱の地域のチカラは、これが原点。

*滋賀県大津市の想像のつかない事件が今後の方向性を

考えなければならない。対象者は十人十色・百人百様。自宅対応。

面接の仕方や面接場所（サポートセンターだけとは限らない）

「例として、地区公民館・単位自治会館・自宅の庭にあるベンチ」

<今まで個人面接をしてきたことが対象者との人間関係を円満にできてきたことが「ひとつの事件でどう対処してゆくのか

簡単に答えや解決策は、時間をかけなければならない>

・観察所の社会復帰調整官。観察官の直接担当（困難な事件）

「土曜日・日曜日・祭日の緊急連絡先」（管理職の携帯対応）

*「オフレコですが、35年多くの事件を・やめたいこともあった」

※保護司の本当の原点「人のために何ができるのか」

☆人と寄り添える気持ちと心のやさしさを大事に。

・退任式で皆さん同じ言葉で、失敗もあったけど人として謙虚になれた。自分みがきが出来た。人のつながり大切だ。

これからの時代、保護司が減っても皆な同じ
気持ちで心をひとつにして活動すれば、次ぎに
つながる人づくり、組織づくりができるはず。